

県立学校学習空間デザイン検討委員会 最終報告書 内容整理表(案)
 ~中間報告書 第3章の内容を再整理~

従来の空間 現状の課題	新しい空間			中間報告書との違い	
大項目	小項目	内容			
(1) 共通項目	ア	居心地が良い空間	採光・通風が考えられた快適な空間。季節や自然を感じる空間		
	イ	多用途な空間	重ね使いや、共用化による多用途な空間、フレキシブルラーニングエリア		
	ウ	空間の有機的なつながり	室同士の連携、つながりを考慮した平面計画		
	×	エ	基本性能	断熱性向上・空調機能、可変性	大項目7へ移動
	×	オ	改築と改修	改築による整備、改修による場合も改築と同様な取り組み	大項目6へ移動
	×	カ	空間の質・機能美	本質的な意味や機能、地域の想い等、総合的に考え抜かれた質の高い空間	報告書の最後に別で章立て
		キ	地域性・自然環境(仮)	広い県土ならではの地域性・気候風土を考慮した施設整備	新しく追加(項目として明確に示す)
(2) 空間デザイン	ア	学習空間	知識を蓄える学びから能動的な活動へ。「探究的な学び」を支援する空間	それぞれの空間に論理的説明を加える	
	イ	生活空間	生徒同士の交流が生まれる空間とゆとりと快適性に配慮した空間		
	ウ	執務空間	教員間の情報共有・意見交換を容易に。生徒が相談しやすい自主的な学習を手助け		
	エ	交流空間・運動空間(仮)	地域との交流する空間を整備し、ウチからソトへの学びへ。地域の方と学校との協働が出来る場所	新しく追加	
(3) 地域の施設として求められる 機能と適正な規模等	ア	共同利用・周辺施設との関	複合化、周辺の市町村施設との共有化、減築 (共有化については、学校での判断等が困難なため、統一的な制度設計が必要か)		
	イ	防災拠点	生徒・近隣住民の避難場所。		
	ウ	将来を見据えた施設の整備	少子化を見据えた、学校施設以外への転用も想定する設計。必要に応じて変化できる柔軟性 (注 掲載内容については、要検討)	新しく追加(建築部会での検討内容)	
(4) 導入手法(PPP,PFI等)	ア	施設の複合化	他用途での活用		
	イ	共有化	学校間での共有		
	ウ	管理委託	人件費の削減、指定管理者制度等の導入		
	エ	民間施設等の利用	使用料の負担		
	オ	PPP、PFIの導入等	他の公共施設との連携を考える。民間活力の導入が必要かを考える。財政的な工夫。	整備部会の検討内容を追加	
(5) 維持管理	ア	維持管理	将来的な改修・日常的な維持管理を考慮した施設		
	イ	自然エネルギーの活用	省エネルギーの視点。ランニングコストの削減。アクティブソーラーとパッシブソーラーのバランスを検討		
(6) 全体計画・個別計画		マスタープラン、ビジョン、モデル		大項目に移動	
(7) 学校づくりのスキーム	ア	計画の実現・予算確保		大項目に移動	
	イ	具体的な整備手法			
	ウ	整備後の学校運営			
(6) これからの学校づくり 新しく追加	ア	改築と改修	改築による整備。改修による場合も改築と同様な取り組みを実現することを目標とする	共通項目から移動	
	イ	体制整備	県側の組織体制を整える。県教委+知事部局との連携		
	ウ	具体的な整備手法	基本構想、基本計画の作成手法。プロポーザル方式等の実施		
	エ	計画の実現	再編整備は、高校改革+デザイン検討委員会で全体計画。県立学校全体では個別施設計画	建築部会の検討内容を追加	
	オ	整備後の学校運営	施設を使いこなす工夫。コンセプトを実現する「ヒト」の重要性。設計思想を施設管理者に伝える		
(7) 基本性能・整備方針 新しく追加	ア	環境計画	オープンスペースにより、各空間がつながる部分があるため、音環境、熱環境の検討が必要	新しく追加	
	イ	環境対応・サステナブル	持続可能な社会の実現に向けて。カーボンニュートラル、ゼロエミッション、SDGS	新しく追加(知事からの意見)	
	ウ	断熱・空調	断熱性向上・空調機能の範囲	新しく追加(基本性能をより具体的に)	
	エ	将来を見据えた可変性	5年、10年、30年、50年スパンでとらえる。設備的、内装的、構造的。可変性と可動性の違い	新しく追加(基本性能をより具体的に)	
	オ	家具・外部空間	備品ではなく、空間に適した家具を配置。外部空間とのつながりを重視	新しく追加(項目として明確に示す)	